

教 科	学 校 名	職 業	氏 名	派 遣 先	期 間	研 修 内 容
家 庭	福島県立安積高等学校御館分校	教諭	千葉永江	福島県衛生研究所 福島県研究会	8月2日(月) 8月7日(土)	食品添加物の分析及び細菌培養に関する実験
	〃 須賀川高等学校	教諭	菅野節子			
	〃 須賀川女子高等学校	教諭	松本史子			
	〃 岩瀬農業高等学校	教諭	山県アサ子			
	〃 磐城農業高等学校	教諭	中町孝子			
	〃 四倉高等学校	教諭	大和田憲子			
	〃 浪江高等学校	教諭	横山孝子			
	〃 湖南高等学校	教諭	鈴木敏子			
	〃 会津農林高等学校	教諭	阿部弘美	ジャノメミシン工業株式会社	7月26日(月) 7月31日(土)	縫製に関する実験・実習
	〃 只見高等学校	教諭	小林珠枝			
	〃 四倉高等学校	教諭	山田英子			

(2) 県主催の研究講座とその内容

昭和51年度産業教育現代化講習会

ア 目 的

本県産業教育の現状を分析し、将来の方向をみいだし、当面する諸問題について、研究協議し、産業教育の現代化を図るとともに、関係教員の指導力の向上に資する。

イ 期日・会場・参加人員

期 日 昭和51年11月4日(木)～11月6日(土)

会 場 福島県教育センター

参 加 人 員 農業11人 工業15人 商業24人
家庭19人 計69人

ウ 研究主題

「実験・実習指導の改善」

エ 講師、助言者

東京工業大学工学部教授 末武国弘
蛇の目ミシン工業株式会社専任講師

滝沢龍子

福島県教育センター指導主事 金沢義夫

〃 桜井正一
〃 佐藤清子
〃 平山宏
〃 桜井操

福島県立福島商業高等学校教頭 武田十四男

福島県立福島農蚕高等学校教諭 富田三男

福島県立喜多方工業高等学校教諭 青津直

福島県教育庁高等学校教育課担当指導主事

夜間高校に集中する傾向が見られる。また、通信教育は、独特の教育形態をもつてゐるため、単に高等学校教育の領域からだけでなく、生がい教育の観点からも見直されつつある。

このような実態をふまえ、ここに学ぶ必要のある勤労青少年や成人のために、定通教育を担当する教員が教育内容や教育方法を研究し、その資質の向上を図るために次の事業を行った。

1 高等学校定時制・通信制教育研修会

(1) 目 的

定時制・通信制教育の諸問題について研究協議を行い、担当教員の資質の向上をめざし、定通教育の充実を図る。

(2) 期 日 昭和51年5月17日(月)～5月19日(木)

(3) 会 場 福島県教育センター

(4) 講師・講演題

「思春期の精神障害」

福島県精神衛生センター所長

上野文弥

(5) 分科会・研究内容

第1分科会

① 定時制高校においては、最近特に生徒数の減少により小規模化が進んでいる。これらの学校においては、教科指導等学校学級経営上、いろいろ困難な問題をかかえて試行錯誤している実態をもとに、望ましい方策について研究協議した。

② 生徒の減少、能力の低下、意識の多様化、地域性等学校それぞれに差もあるが、実態をふまえての指導法教材の精選の問題を研究協議した。

③ 欠席、遅刻、早退等も含めて、基本的生活習慣の形成されていない面が多く、その指導は難しいが、実践例をとおして問題の所在を探り、その対策を研究協議した。

第2分科会

① 夜間定時制高校においては、特に校外の生活指導には手の届かない部分が多いが、問題点を見直し、どのような方法が効果的であるが、実践例をもとに研究協議した。

第11節 定時制・通信制教育

後期中等教育の機会を広く勤労青少年に与えるための定時制・通信制教育は、近年そのあり方について検討・改善が加えられつつある。

すなわち、全日制高校への進学率は毎年上昇しているが、定時制への進学は減少の一途をたどっており、更に都市部の